愛知県・三重県・京都府・大阪府関係史料群の来歴

昭和24（1949）年、水産庁は新漁業法の制定にあわせて、全国の漁村・漁業制度関係資料の調査を企図し、「漁業制度資料調査保存事業」（「事業」と略）を財団法人日本常民文化研究所に委託した。同研究所は漁業制度資料収集委員会を設け、東京月島にあった水産庁東海区水産研究所内に事務局をおき、同年 10 月に同事業に着手した。現在中央水産研究所図書資料館に所蔵されている古文書は、その大半が同事業によって収集されたものである。

さて、今回目録に収録した史料群は、愛知県の「草間村文書」（豊橋市）、三重県の「東一郎家文書」（北牟婁郡紀北町）、京都府の「黒川利七家文書」（宮津市）、「中川寿夫家文書」（京丹後市）、「神野浜漁業組合文書」（京丹後市）、大阪府の「池上屋惣兵衛家文書」（岸和田市）の6つで、その採訪地は2府2県にまたがるものである。これらの史料群は、概ね上記の事業によって収集され、現在は図書資料館に収蔵されているが、若干由来の異なるものも含まれているので、以下に史料群ごとに収蔵に至る概略を記す。

〈愛知県〉

「草間村文書」　採訪時期を特定する資料が残されていないため不明だが、昭和26（1951）年8月に事業を主導した宇野脩平と速水融の2名の調査員が、渥美郡周辺の採訪を行っており、あるいはその際に収集したものかもしれない。

資料は36点で、最も古いものが寛延2（1749）年、最も新しいものが慶應4（1868）年、概ね三河国渥美郡草間村の庄屋安五郎家に伝来したものと考えられる。内容は村同士のやりとりを示す「宗旨請け一札」「送り一札事（勇助養子縁組一件につき村送り状）」などで占められており、村政の概要を知るための検地帳・宗門改帳・村明細帳等は含まれていない。

〈三重県〉

「東一郎家（小山浦）文書」　本資料群は、水産資料館を経て中央水産研究所図書資料館に収蔵されるまで、一貫して「小山浦文書」の名が与えられていた。しかし、『漁業制度資料目録　第1集　全国篇Ⅰ』（日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会、1950年3月）に三重県北牟婁郡紀北町の小山浦で採訪した「東一郎家文書」の目録が掲載されており、その内容を仔細に検討すると、「小山浦文書」と同一であることが分かった。そこで、本目録では、採訪時の家の当主名によって命名する慣例にならって、「東一郎家文書」とする。

ところで、同史料群は、昭和25年の4月に調査員の速水融によって採訪され、前記の資料目録に掲載された後、水産資料館に収蔵されたものと思われる。最も古い資料は明治5（1872）年、最も新しい資料は明治36（1902）年で、総点数は40点である。内容は採訪地の小山浦（おやまうら）がある尾鷲湾で行われた、明治期の鰯地引網漁に関連する諸帳簿で、同浦では寛永の頃から鰯漁が行われていたようである（『角川日本地名大辞典24　三重県』）。

〈京都府〉

「黒川利七家文書」　採訪に関する書類や記録類が一切残っていない。昭和25（1950）年翌26（1951）年の2回にわたって「事業」による調査が行われているが、黒川利七家を訪れたという記録はなく、詳細は不明なままであった。今回、本目録を作成するにあたって現地調査を行い、黒川利七家の所在地を確認すると同時に利七氏のご子孫とお会いすることができた。しかし、「事業」の採訪については知ることはできなかった。

黒川利七家の所在地は、採訪時を昭和25年前後と見れば京都府与謝郡宮津町、現在の京都府宮津市にあり、日本海に面した丹後半島東側の宮津湾の奥に位置していた。現在黒川家は京都市に転居されており、かつては宮津町の漁師町に本宅があった。黒川家が長く従事された生業については、「解題　黒川利七家文書」に詳しい。そちらをご参照いただきたいが、簡略に記すと、今回の調査による聞き取りから、古くから海産物加工業を営んでいたことが分かった。現在残されている「黒川利七家文書」の内容を見ると廻船関係の史料が多く、このことをご子孫や地元の漁業関係の方々にもお尋ねしてみたが、ご存じの方は見つからなかった。このことは本史料群を用いる際に留意すべき事項であろう。

最も古い史料は明治5（1872）年、最も新しい史料は大正13（1924）年だが、大正期の史料はわずかで、90%以上が明治5年から16年までのほぼ10年間に集中している。今回の整理で総点数は193点となった。

「中川寿夫家文書」　採訪に関する記録によれば、昭和25年3月に調査員の二野瓶徳夫によって調査され、その際大半の史料は借用され、昭和30年には返却されている。しかし、借用証の綴りの中に、中川寿夫氏より「証文類1束」の寄贈を受けた旨が記されており、現在図書資料館に収蔵されている史料も大半が証文類であることから、借用時点でその一部を寄贈していただいたものと思われる。

中川寿夫家の所在地は、採訪時は京都府熊野郡久美浜町甲山、現在は京丹後市久美浜町甲山である。今回、本目録の作成に際して現地調査を行い、寿夫氏のご息女はる子氏にお話をうかがう機会を得た。

中川寿夫家文書は、最も古いものが元禄3（1690）年、最も新しいものが明治25（1892）年で、総点数は145点。その大半が田畑・山林・屋敷の譲渡証文である。漁業・水産業に関連した史料はなく、「事業」を主導した宇野脩平の、広く旧家に残存していた史料を後世に残そうとの方針が垣間見える史料群である。同家および史料群の詳細については、「解題　中川寿夫家文書」の項を参照していただきたい。

「神野浜漁業組合文書」　『漁業制度資料目録　第6集　全国篇Ⅳ』（日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会、1952年5月）に、「神野村役場文書」と題する史料群の目録が掲載されていて、タイトルの下に「旧神野濱漁業組合文書」と付記されている。採訪は昭和26（1951）年で、採訪者は二野瓶徳夫であった。同資料目録に7点の史料が掲載されているが、いずれも図書資料館に収蔵されている「神野浜漁業組合文書」に含まれており、上記の「神野村役場文書」はこれを指していると思われる。採訪時にはすでに神野村役場に収蔵されていたのであろう。本目録に収載されている史料は総点数で13点だが、これは新たに目録を取り直した際に、帳簿等に挟み込まれていた史料を加えたためで、採訪当初より史料の増減はな

いものと思う。

神野村は、採訪時は熊野郡神野村、現在では京丹後市にあり、神野浜は久美浜湾の日本海に面した入口部分にあたり、史料は明治36年に設立した神野浜漁業組合に関する専用漁業権関係史料、漁業組合名簿、同総会議事録等によって占められ、最も古いものが明治36（1903）年、最も新しいものが昭和5年である。

〈大阪府〉

「池上屋惣兵衛家文書」　本史料群は、採訪に関する記録はなく、元来史料が収められていたと思われる茶封筒と一緒に保管されていて、そこには大阪府堺在住の人物が購入したものであることが記載されている。何時の時点かは不明だが、恐らく水産資料館に寄贈されて図書資料館に収蔵されるに至ったものであろう。

史料はほぼ、「干鰯通帳」と題されており、横帳の裏には「池上屋惣兵衛」あるいは「池惣　泉具」と書かれており、干鰯問屋であろう。宛先は「東大路村　滝川治郎右衛門」とあって、現在岸和田市になっている南郡東大路村の魚商と考えられる。両者の干鰯の取引を示す帳簿であろう。最も古いものは元治元（1864）年、最も新しいものが明治6（1873）年、総点数は11点である。

今回の目録を作成するにあたっては現地調査を行い、黒川智恵子、黒川裕子、飯田眞津子、杉本武美、中嶌陽太郎各氏、京都府漁業協同組合宮津支所にお集まりいただいた方々、および中川はる子、的井史郎、和田市郎各氏のお世話になった。記して感謝の意を表したい。

（文責　越智信也）